

めぐみイエス・キリスト教会

2018年5月6日(日)第一主日礼拝
週報「通算第404号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈禱会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年5月6日(第一主日礼拝)

午前10時～11時

司会 鈴木 竜実 牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈り】

【賛美Ⅰ】 新聖歌148「夕べ雲焼くる」 p. 206

【交読文】 No.55 ヨハネの福音書第15章 p. 923

【賛美Ⅱ】 新聖歌467「世の終わりのラッパ」 p. 752

【使徒信条と主の祈り】

【先週メッセージから】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.2 「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 使徒の働き1章7節～12節

【祈 禱】

【説 教】 《主イエス様の昇天》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱後奏】

※本日の聖書箇所 使徒の働き1章7節～11節

1:7 イエスは言われた。「いつとか、どんな時とかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。

1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、私の証人となります。」

1:9 こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。

1:10 イエスが上って行かれるとき、弟子たちは天を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た人がふたり、彼らのそばに立っていた。

1:11 そして、こう言った。「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」

●ポイント1 ルカの福音書の最後の記述から

※ルカの福音書24章50節～53節「ベタニヤに連れて」(新約p.156下段)

それから、イエスは、彼らをベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして祝福しながら、彼らから離れて行かれた。彼らは、非常な喜びを抱いてエルサレムに帰り、いつも宮にいて神を誉め讃えていた。

※使徒の働き1章12節～14節「ヨハネ・マルコの家で」(新約p.208下段)

1:12 そこで、彼らはオリーブという山からエルサレムに帰った。この山はエルサレムの近くにあって、安息日の道のりほどの距離であった。

1:13 彼らは町にはいると、泊まっている屋上の間に上がった。この人々は、ペテロとヨハネとヤコブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党员シモンとヤコブの子ユダであった。

1:14 この人たちは、婦人たちやイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心を合わせ、祈りに専念していた。

●ポイント2 なぜイエス様は、弟子をオリーブ山に連れて行ったのか？

※マルコの福音書14章43節～52節「ゲッセマネの園で」(新約p.90上段)

●ポイント3 「旧約聖書に書かれた主イエス様の再臨の預言」とは？

※ゼカリヤ書14章4節～5節抜粋 「主の日が来る」 (旧約p.1432上段)

14:4 その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。

14:5 私の神、主が来られる。すべての聖徒たちも主と共に来る。

◎先週のメッセージの概要【主イエス様の約束】

《さてイエス様は、最後の金曜日に、エルサレム市内からオリーブ山にあるゲッセマエの園に行かれる時に、弟子たちに、三つの約束をされました。

一つ目の約束は、

「私を信じる者は、私の行なうわざを行なう」と言う約束です。

これは、イエス様がなされた奇蹟を表わしています。

二つ目の約束は、

「またそれよりもさらに大きなわざを行なう」と言うことです。

イエス様のなされた御わざよりも大きなわざとは何なのでしょう。それは、人々を救いに導くことです。この約束もペテロを通して成就します。

五旬節の日、すなわち聖霊が降られた日、ペテロは大胆に語りました。

「悔い改めなさい。そして、罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。」と。そこで、ペテロの言葉を受け入れた者は、バプテスマを受け、その日何と、男の人三千人ほどが弟子に加えられました。イエス様の御もとに、人々を導くことこそが、「大きなわざ」なのです。

そして三つ目の約束は、

「私の名によって何かを私に求めるなら、私はそれをする」と言う約束です。

ユダヤでは、名前はその人の人格を、あるいはその人自身を表わすと言われています。アラム語では「イエシュア」、主は救いと言う意味です。また「インマヌエル」とは、「神は共におられる」と言う意味です。イエス様の名によるのですから、イエス様の御心と一致している必要があります。その名の持つ意味に相応しい願いごとと祈りに、主は答えて下さることを約束しています。

私たちは、本当にその御名を信じ、信頼しているのでしょうか。これは遠い昔の話ではありません。なぜならイエス様は、今も生きておられるからです。

私たちの神様は死んだ者の神様ではありません。生きている者の神様なのです。このお方が創造主であり、まことの神様なのです。》

◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、5月13日(日)午前10時から行ないます。また聖書研究・祈禱会は、5月9日(水)午後6時15分です。5月30日(水)はお休みとなります。

2. 鈴木師は、5月15日(火)市川朝禱会の奏楽を担当します。そして同じ日に、代々木朝禱会において、奨励(メッセージ)を担当します。お祈り下さい。